



町の規模にあった処理施設を

・・・新潟市舞平清掃センター視察報告

行政視察 し尿処理問題は、八丈町にとって早急に取り組まなければならない懸案事項のひとつです。町では今、石を積んだだけの浸透式処理と合併式浄化槽処理の両方が行なわれていて、その汚泥は清掃業者が定期的に回収して、山野に投棄されている現状があったからです。町が合併処理浄化槽への移行を進めているので、坂下地区の新築家屋ではほとんど合併処理浄化槽が設置されているものの、地区によってはなかなか進んでいないところもあります。一日も早く適正な方法でし尿処理を行ない、循環型社会に向かう道筋をつくる必要があります。7月に行なわれた、新潟の舞平清掃センターの議員視察もこうした考えによるものでした。



最新式の設備 人口100万に近い大都市、新潟。市街地の大部分に下水道が整備されています。一方、市街地から外れた集落の合併浄化槽世帯、事業所、汲み取り世帯などのし尿や汚泥はこのセンターに回収されてきます。総工費53億円をかけたこの施設は臭いもなく、し尿処理センターとは思えないほど優雅で立派な建物でした。し尿の処理水は膜分離設備で処理され、活性炭吸着・滅菌のあと、河川に放流されています。ここでは、本来のし尿・浄化槽汚泥処理だけでなく、周辺の学校・ホテル・スーパーなどから生ゴミを受け入れています。生ゴミと脱水された汚泥でメタン発酵を行ない、そのメタンガスを、浴室や多目的ホールが併設された敷地内の保養施設に熱源として供給しています。消化汚泥(汚泥残渣)はさらに発酵させて堆肥にし、住民に無料で配布されるなど、周辺住民へのサービスも十分配慮されています。

最新の設備・装置を備えたセンターですが、問題もありました。まず、年間3億円もの莫大な維持費がかかっていること、規模が大きすぎること、メタンガスや堆肥利用はまだほんの一部であることです。八丈町にふさわしい規模と施設は、まだ他にあるように思いました。今後の汚水処理施設のあり方については、八丈町汚水処理推進協議会で検討されることになっています。



動き出した八丈町汚水処理推進協議会

今年度予算で、し尿処理施設適地選定委託料300万円が計上されていました。私は、業者に委託する前に、まず、町にふさわしい施設はどんなもので規模はどれくらいなのかについて、住民の要望を吸い上げるような組織をつくってほしいと要望しました。

第一回は9月14日。協議会の委員は17名。このうち2名が公募です。町の計画ではかなりの大規模施設で、建設費は20億円以上になるとも言われていますが、設計段階まで決めてから協議をするのではなく、まず資料収集や勉強会を通じて工法やしくみを比較検討し、その上で島にあった施設を探るべきだと思います。

振り返れば、もう4年

議会は無欠席、毎回質問に立ちました・・・行政経験のない私は、町政のしくみを十分に知っているとはいえませんでした。議場では、専門知識をもった担当の課や係の職員と向かいあうので、事前に下調べをしていますが、緊張しました。

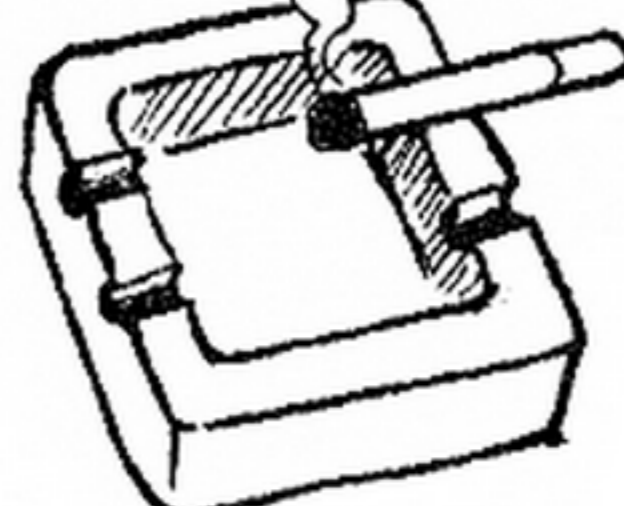
町長はじめ執行部の答えの多くは、現状の説明に重点がおかれ、議員の提案や指摘をその場で受け入れることはあまりないのです。特に一般質問では、その場しのぎのはぐらかすような答弁が多々あり、がっかりすることもありました。でも、繰り返して訴えることにより少しずつ理解されていくので、言うべきことを言わなければ議員としての存在価値はないと思い、積極的に発言するようになりました。

ニュースレター発行・・・皆様とお約束した議員活動を報告するニュースレターを年4回の定例議会のあとに欠かさず発行しました。新聞折り込みで配布し、現在15号まで発行しました。議会での一般質問の質疑応答や、行政視察の報告、議会のしくみ、日ごろの関心事などを載せました。議会終了後すぐに出すべきですが、なかなか追いつかないこともありました。議会に対して少しでも興味を抱くようになって下されば嬉しいのですが。

知れば知るほど 議員になると、様々な情報・資料が得られます。それをもとに質疑をすることになりすが、町からの回答を得て、また新たな疑問や要望が湧いてきます。住民の代表として時間と労力をかけ十分調査して質問しなければなりません。議員の仕事は、要望や指摘が実現する達成感もあり、やりがいがあります。皆様の励ましの言葉や家族の協力が大きな支えであり、これが私の活動の源泉となっています。

議場の外で

● 洋式トイレ 3年前に、役場2階のトイレが改修されました。女性トイレも2つの和式トイレの1つが洋式になりました。道議員とともに喜びました。議会傍聴者は少ないですが、時に婦人会の方が大勢みえることもあります。今、議会事務局の職員3人のうち2人は女性。女性が働きやすい環境を整える上で、トイレの洋式化や洗面所の改築は最低条件だと思います。私も折に触れて、議会でそのことを訴えています。



● 喫煙室 4年前、議場外は、自由に喫煙が許されていたので2階の廊下は煙で充満していました。今は、喫煙コーナーが廊下の隅に追いやり、廊下はすっきりしています。愛煙家はますます肩身が狭くなり、私を含めた嫌煙家は過ごしやすくなりました。でも、喫煙者の数はなぜか一向に減りません。

● ノーネクタイ 3年前からノーネクタイが実施されました。環境省が打ち出した「クールビズ」の影響もあって毎年実施され、ついに今年6月から9月いっぱいまで延長されました。したがって6月と9月議会もノーネクタイで過ごしました。地球温暖化防止に取り組み町の姿勢は評価できます。欲を言えば、冷房温度設定が何度上がり、その結果電気代がどれくらい節約できたのかを知りたいですね。

6月定例議会一般質問

1. 管理型最終処分場建設計画に発想の転換を

幸子 東京都島嶼町村一部事務組合(一組)は、中之郷の予定地における管理型最終処分場の建設を断念したと報告しました。住民が納得できる場所と施設の用地選定には、かなりの困難がともなうものと予想されます。オープン型にこだわらず、クローズド型も視野に入れ発想を変えてこの問題に対処すべきだと思いますが、町はどう考えますか。

住民課長 5年前の一組議会の議決を優先します。候補地は法的条件をクリアしたところから選び、オープン型を進めます。

幸子 こうした提案・指摘に対する一組や町の反論はいつも、「広域事業」だから、「一組議会の承認」を得ないといけないからというものでした。しかし、一組議会の議長は大島の町長であり、議長は各島の町村長と議長です。町の事情は八丈の町長・議長が最も理解しているはずであり、それを日ごろ付き合っている町村長に説明していくべきです。また、議会は多数決といいますが、町の事情を話せば賛成に回ってくれる議員もいるはずで、難しいことではあってもそれを政治的なものではないでしょうか。要するに、事務局が提示した計画案に異議を唱えるほどの熱意が、一組議会議員の方々になく、事務局の意のままに、すんなりと審議が進められてきたということでしょう。だからこそ、今後は町長と議長に頑張っていただきたい。

用地については反対がおきにくい町有地が、また施設については、雨が強く風も強い気象条件と、森と水源に恵まれた地形を考慮すると、環境への負荷が少なく面積も少なくて済むクローズド型が適していると思います。景観に配慮して観光地としてのイメージダウンを避けられ、島の基幹産業である農水産業や暮らしへの影響も少なく済み、さらに跡地利用も可能です。

クローズド型が否定された理由の一つは、オープン型に比べて建設費用も維持費もかかるということでした。屋根・被覆部分は国庫補助の対象外となるので、莫大な費用がかかるというのです。確かに建設費はかかりますが、屋根があるので水処理が少なくて済みます。維持費は大幅に削減できます。水処理水をまったく外に出さない循環式の無水処分場もいくつかできています。さらに、クローズド型はまだ建設個数が少なく評価が定まっていないことも指摘されました。しかし、当時わずか10数ヶ所だったのが、この3年間に43ヶ所に増えています。

このように、一組がクローズド型を採用できない理由としてあげてきた根拠がもはや説得力をもっていないことが、次第に明らかになっています。したがって、私は町独自の調査を行い、それを一組議会に提出するものも有効ではないかと思えます。

幸子 再質問 長期的視点にたった廃棄物行政を進める上で、私は町有地にクローズド型施設をつくるよう要望します。一組議員への根回しをぜひお願いしたいと思えますが、町長の見解をお尋ねします。また、町独自の調査もすべきですが、この点についてもお答え下さい。

住民課長 用地選定の諸条件に合う町有地があれば検討したい。

町長 簡単にも難しいですけどね、クローズドなんていいたら大変なことになりますよ。もう決まったことだから、説得も難しいです。

みんなが当事者のはず・・・

9月14日中之郷公民館で、管理型最終処分場の用地選定について住民説明会がありました。候補となる6ヶ所の説明がかわると、樫立住民から強い反対の声が聞かれました。2年前、中之郷候補地の反対する署名運動が起きたこともあって、住民の環境問題に対する意識も高まり、処分場の重要性やリスクに対する認識も深まっていたように思えます。クローズド型に触れる発言もありましたが、一組の答弁は「5年前の決定事項だから」とオープン型を強調していました。

先日の議会(全員協議会)でも、もう決まったことだからオープン型で場所を決めるだけ、という意見が大勢です。決定事項とはいえ、島の将来を考えてそれが正しい結論なのかどうか、私は今も疑問に思っています。21日の樫立自治会臨時役員会で、「樫立は候補地にならない」との町長の意向が報告されたようですが、自分たちの住む地域につくられればそれで問題解決なのではなく、こんなときこそ島のゴミ問題全般に議論が広がってほしいと思えます。住民みんなが当事者なのですから。

ぶ・れ・い・く・た・い・む 「イタチ」

島でイタチを見たことはありませんか。敏捷で身軽で愛らしく、ネコの半分もない小さな動物です。このイタチ、実はもともと島にはいませんでした。

今から45年も前のことです。八丈島にはさつまいも畑がたくさんありました。そのさつまいもをネズミが食べてしまうので、島民は困っていたのです。そこで、ネズミが大好物のイタチを島に放したら、ネズミの被害は減りイモがたくさん収穫できるようになるだろうと考えたのです。静岡県からオスメスあわせて約90頭のホンドイタチが島に運ばれました。生きて上陸を果たしたのは67頭でした。これが今島全域に棲んでいるイタチの先祖です。

放された直後はネズミがたくさんいて、イタチもたらふくネズミを食べ、数が増えました。ネズミを食い尽くしてしまうと、鳥のヒナ、トカゲ、マムシなどもたべました。それらも数が減っていき、今度は島方々のイタチを食べようとなり、次第にイタチの数も減ってきました。今島にいるイタチは主に昆虫を食べ、時に海岸の小魚や木の実などを食べて暮らしています。かつては自然生態系のなかでもあった役割ですが、今は八丈の自然に溶け込み自然生態系のなかで一定の役割を果たしています。なかなかチャーミングな動物です。やさしく見守ってあげてください。



編集後記

ニュースレターは私と住民の皆様をつなぐ大切な絆と思ってきました。多少遅れることもありましたが、年4回の議会ごとにその報告をしてまいりました。出すたびに、住民の方から共感や励ましや批判の言葉をいただきました。時に匿名で、ときに名乗って、メールでご意見をいただくこともありました。私にとって何よりの励みになりました。これまでご愛読いただきありがとうございました。

[このページのトップへ戻る](#)

[議会だよりのページへ](#)

[幸子の表紙ページへ](#)